台風第 12 号洪水における引原ダムの洪水調節効果

1 引原ダムにおける洪水調節

- (1) 引原ダム流域では、9月2日13時頃から雨が降り始め、ダム地点の最大時間雨量は24mm/h、最大日雨量は269mm/日【既往最大274mm/日】、ダム流域における総雨量は360mmに達しました。
- (2) 引原ダムでは最大流入量約 234m³/ s のうち約 97%に相当する約 228m³/ s をダムに貯留することにより 放流量を約 5.4m³/ s に低減するなど、洪水調節容量を最大限活用することにより、東京ドーム約 5 杯分に相 当する約 607 万m3 の洪水調節を実施しました。
- (3) 3日19時10分には異常洪水時ゲート操作(ただし書き操作)開始水位に達したため、建設後初めて異常洪水時ゲート操作(ただし書き操作)を行いました。

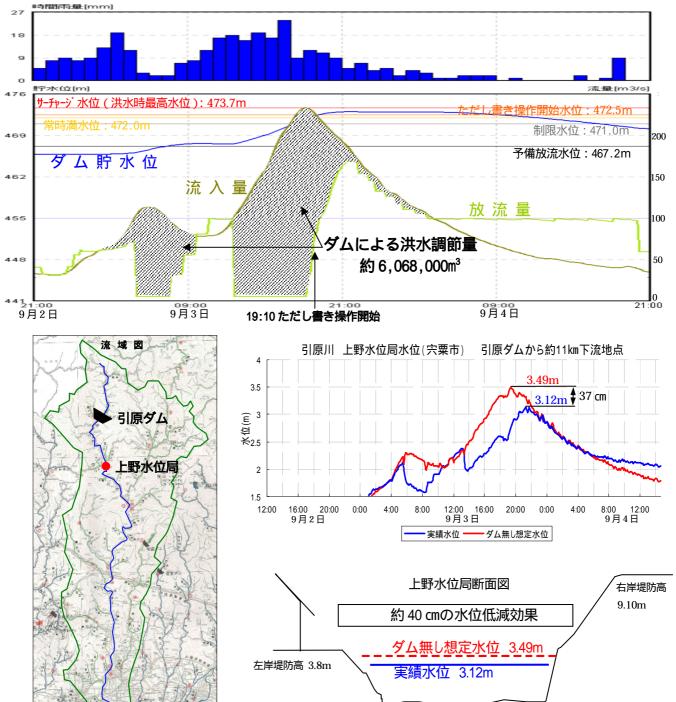
2 下流河川の水位低下効果

(1) 引原川 (上野水位局[宍粟市]) の最高水位を約 40cm 低下して、洪水を安全に流下させた。

【想定水位 3.49m 実績水位 3.12m】

(2) ダムがなかった場合、同地点の水位は堤防越水まで約30cmの高さに達したと想定されます。

3 ダム地点の降雨量を洪水調節状況



今後の調査により数値等に変更が生じる場合があります。

台風第 12 号洪水における生野ダムの洪水調節効果

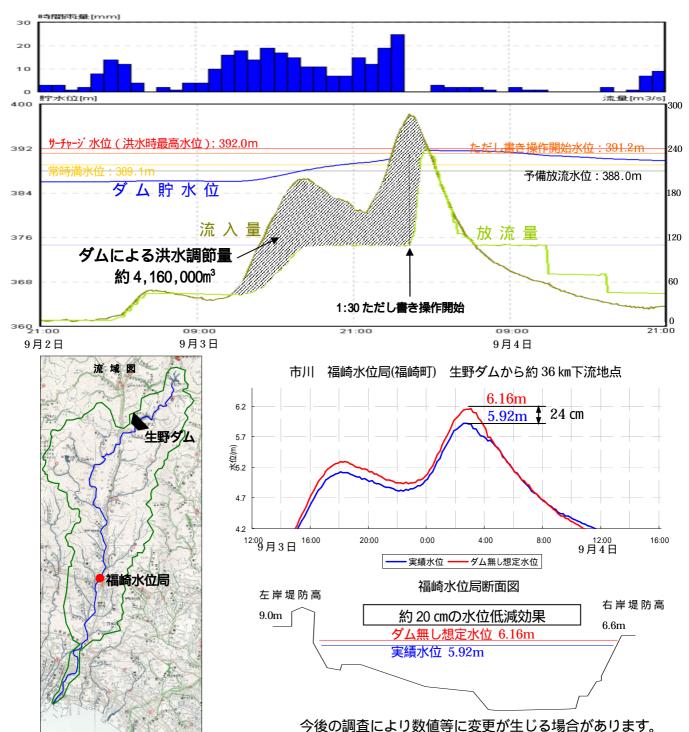
1 生野ダムにおける洪水調節

- (1) 生野ダム流域では、9月2日8時頃から雨が降り始め、ダム地点の最大時間雨量は25mm/h、最大日雨量は265mm/日【既往最大213mm/日】、ダム流域における総雨量は341mmに達しました。
- (2) 生野ダムでは最大流入量約 286m³/ s のうち約 61%に相当する約 176m³/ s をダムに貯留することにより 放流量を約 110m³/ s に低減するなど、洪水調節容量を最大限活用することにより、東京ドーム約 3 杯分に相 当する約 416 万m3 の洪水調節を実施しました。
- (3) 4日1:20 には異常洪水時ゲート操作(ただし書き操作)開始水位に達したため、建設後初めて異常洪水時ゲート操作(ただし書き操作)を行いました。

2 下流河川の水位低下効果

- (1) 市川(福崎水位局[福崎町])の最高水位を約 20cm 低下して、氾濫危険水位(6.00m)以下で洪水を安全に流下させた。【想定水位6.16m 実績水位5.92m】
- (2) ダムがなかった場合、同地点の水位は氾濫危険水位を越え、堤防越水まで約50cmの高さに達したと想定されます。

3 ダム地点の降雨量を洪水調節状況



台風第 12 号洪水における成相・北富士ダムの洪水調節効果

- 1 成相・北富士ダムにおける洪水調節
 - (1) 成相ダム及び北富士ダム流域では、9月1日23時頃から雨が降り始め、成相ダム地点の最大時間雨量は19mm/h、最大日雨量は211mm/日【既往最大269mm/日】 ダム流域における総雨量は279mmに、また、北富士ダム地点の最大時間雨量は24mm/h、最大日雨量は332mm/日【既往最大374mm/日】 ダム流域における総雨量は416mmに達しました。
 - (2) 成相ダムでは、最大流入量約 27m³/s のうち約 87%に相当する約 23.6m³/s をダムに貯留することにより 放流量を約 3.6m³/s に低減するなど、約 109 万m³の洪水調節を実施しました。
 - (3) 北富士ダムでは、最大流入量約 9.4 m³/ s のうち約 87%に相当する約 8.2 m³/ s をダムに貯留することにより放流量を約 1.2 m³/ s に低減するなど、約 38 万 m³の洪水調節を実施しました。
 - (4) 両ダムあわせて、東京ドーム約1.2杯分に相当する約148万m3の洪水調節を実施しました。
- 2 下流河川の水位低下効果

成相川 (掃守橋水位局 [南あわじ市]) の最高水位を約80cm低下して、洪水を安全に流下させた。 【想定水位1.10m 実績水位0.33m】

3 ダム地点の降雨量を洪水調節状況

